
山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第133号(通巻第200号)

2015年2月27日 発行
山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

■ 山梨大学「教師塾」第3弾「初任者元気アップ講座」の報告

附属教育実践総合センターでは今年度開始した「教師塾」の取組第3弾として、平成27年2月17日(水)午後1時10分から模擬授業室を会場に標記の講座を開催しました。4月から教壇に立つことが約束されている学部学生や、大学院生。またこれから教職を目指そうとする学生など、14名が参加しました。メニューは、教職大学院で学んでいる現職の先生方に協力を得て、3名の先生方からお話をいただきました。学級開きの心構えや教師として現場に立つときに意識するとよいポイント。今後受講するであろう初任者研修の概要。現場で行われている学校評価や教職員評価の意味や内容。担任する子どもたちや保護者との対応の仕方。部活の指導方法などなど・・・目から鱗のお話だったと思います。その後教職大学院客員教授の中澤勇三先生と、教職支援室長の平井政幸先生から管理職から見た初任者の心構えについてお話を伺いました。小・中学校の校長先生を経験しているお二人の話は、現職の先生方に加えて、参加者の心に響いていたようです。

その後参加者の質問コーナーを設けましたが、学級開きの時に子どもたちに話すポイントはどんなことですか？部活の指導で経験のない部活を受け持ったときのコツは？いじめや問題行動に遭遇したとき、どんな対応策がありますか？などの質問が飛びだし、経験豊富な先生方から助言をいただいていた。社会人としての心構えを再確認できた。教師としてのスタートを切るに当たって準備しておくことが明確になった。など参加者にとって有意義であったという感想が多く寄せられました。教師として羽ばたいていく卒業生や修了生の健闘を祈りたいと思います。



■ 平成26年度から開始した「山梨大学教師塾」について

山梨大学教育人間科学部に所属する学生の授業力向上を目的として標記の取組を開始しました。今年度実施した取組は次の3点です。

①学習指導案支援講座

前期、後期の教育実習期間前の一定期間、実践センターの交流人事教員（実務家教員）が希望する学生の相談に当たりました。主に学生が教育実習で行う授業についての事前相談を行い今年度は道徳の時間の指導について述べ8名の学生が来室しました。実践センターには教科指導の専門家もいますので今後もPRに努めたいと思います。

②教育実習メンタルサポート

教育実習に関わっている交流人事教員（実務家教員）が、教育実習先に参観や聞き取りに行った際、メンタル面で悩みを抱えている学生の実態を把握し、臨床部門の教員と連携して学生の面談に当たりました。今後も早期適切な指導を実習校と大学が連携して行い、学生のサポートを継続していく必要があります。

③公開授業の実施

前述の「初任者元気アップ講座」に加えて、ベテランの現職教員による公開授業を実施し、学部・大学院学生が参加した模擬授業を開催しました。今年度は7月29日に道徳。12月17日に算数。計2回の公開授業を行いました。学生の皆さんは多くの優れた授業を見て、そのノウハウをまね経験を積むことが自身の授業力向上につながっていきます。来年度以降も積極的な参加を呼びかけていきたいと考えています。

◇教育ボランティアの工夫（試案）

まだ試行的な段階ですが、既存の教育ボランティアを工夫して、教育実習先など、自分が経験した学校での教育ボランティアを、継続して経験させていただき、子どもたちの成長を一定程度継続して観察をしたり、現場感覚を養って実社会に巣立っていくなど、より実践的な取組になるように現在模索をしているところです。

☆実践センターの「教師塾」は以上の4つの取組を来年度も実施する予定です。今後も周知を図る中で学生の教師力向上に役立てていただきたいと思います。

■ 「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談」・教育相談室に関するお知らせ

相談スタッフについて新規に登録された方も含め、来年度に向けてHPの相談スタッフ一覧を更新します。新規登録の追加や相談日時の変更等ありましたら、3月10日頃までに教育実践総合センター事務室まで電話、メールなどでお申し出ください。

■ 教育相談室に関するお知らせ

「教育相談室（L-428）」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

「教育相談室」のご利用に際しましては、事前に附属教育実践総合センター事務室（J号館4F）

にて空き状況を確認の上、ご予約ください。火曜日は附属教育実践総合センターが優先的に使用

させていただきます。鍵はJ号館1階支援課にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

■ 第4回連携・教育研究会（山梨県総合教育センター研究発表大会）のご報告

山梨県総合教育センター研究発表大会が、2月24日（火）に山梨県総合教育センターにて開催されました。この大会は、第4回連携・教育研究会を兼ねており、毎年県内の小・中・高・特別支援の各学校の先生方はもちろん、大勢の教育関係者が参加し、山梨県総合教育センターの一年間の研究の成果について学ぶ研究大会です。

大学側からは、来賓として、中村享史教育人間科学部長、鳥海順子附属教育実践総合センター長、アドバイザーとして、言語文化教育講座の岩永正史教授、科学文化教育講座の松森靖夫教授、教育実践創成講座の服部一秀教授、言語文化教育講座の田中武夫教授、教育実践創成講座の東海林麗香准教授、附属教育実践総合センターの川村直廣客員教授、中澤勇三客員教授、蘆原桂教授、成田雅博准教授、一瀬孝仁准教授の12名が参加しました。



全体研究テーマ「学校教育を支援する実践的研究」を受けて、午前には基調提案、特別講演、午後は各研究グループの提案・協議が分科会形式で進められました。

特別講演会では、「いじめ防止対策推進法による保護者・子ども・学校との関係の変容 ～教職員が最も大切にすべきこと～」をテーマに、大阪大学大学院教授小野田正利先生による講演が行われました。今、学校現場

が抱える喫緊の課題の一つである保護者対応を柱に、各学校におけるいじめ防止対策推進法への取り組み、保護者対応の際に大切にしたいノウハウやポイント等について、多岐にわたり多くの示唆に富む話を聞くことができました。また、VTRを通しての具体的な事例についても考える場があり、改めて保護者対応の在り方について考えさせられる貴重な時間になりました。

午後の主事研究の分科会研究発表は、「教育課題研究グループ」「相談支援研究グループ」「情報教育研究グループ」「教育課程実施状況調査研究グループ」「一般留学生研究」の研究グループに分かれ、それぞれの分科会で熱心な研究発表が行われました。例えば、教育課題研究グループの理数教育研究グループでは、3年次研究の3年目を迎えた今年度、作成した指導モデルの検証授業についての研究成果が提案され、今後の理数教育の充実にむけた方向性が提案されました。その他のグループの発表においても現在の教育課題に焦点を当てた提案がされ、一年間の研究の成果を感じる有意義な時間になりました。



これまでのセンターだよりの一部は、 <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見るすることができます。